

口絵写真 多柱基礎工法による大島大橋の工事近況

論説 海外技術協力の強化を願って.....菊池三男 1

特集<土木学会昭和 49 年度全国大会>

特別講演

- 1. 鉄道の社会的使命と土木技術発展への役割.....瀧山養 2
2. 建設業界の将来.....小山内了介 12

第 29 回年次学術講演会の総括展望

- 第 I 部門.....岡村宏一・芳村仁・福本喆士・大久保禎二・小堀為雄・小坪清真 18
第 II 部門.....室田明・井口昌平・芦田和男・岩佐義朗・中西弘・寺島重雄・寺島泰 24
第 III 部門.....山口柏樹・谷本喜一・山門明雄・小野寺透 31
第 IV 部門.....明神証・河上省吾・松浦義満 35
第 V 部門.....長瀧重義・塚山隆一・小柳治・西堀忠信 38

昭和 49 年度全国大会経過報告.....土木学会中国四国支部 42

報告 新開門トンネル工事の概要.....島田隆夫 48

話のひろば 新・郷土の土木 2
なにわのはし (II)井上洋里 59

資料 台風 16 号による多摩川水害の概要.....岡田朋・中村敏治・福田昌史 65

● 今月の表紙「直轄海岸保全事業 釜生海岸平面図、鳥取県米子市釜生において海岸侵蝕の防止と積極的な砂浜の回復を目的として昭和46年度から離岸堤を施工し 砂浜が回復した」●

土木学会誌内容紹介.....前付(1)
論文報告集内容紹介.....前付(3)
補剛された板要素の座屈強度に関する二、三の考察・長谷川彰夫・太田孝二・西野文雄の平均応答スペクトル作成に関する一考察・星谷勝・矢作枢・柴田定昭・草野直幹の有限要素法の基礎としての変分原理に関する一考察・吉田裕の有限振幅内部重複波に関する研究・沢本正樹・加藤一正のねじりを受けるプレストレストコンクリート長方形断面はりについて・児島孝之・岡田清の相異なる3主応力下の土の変形・強度特性(英文)・松岡元・中井照夫の不均質弾性地盤の地震動解析に関する近似手法(英文)・堀正幸

国際会議ニュース.....前付(6)・141
ブックガイド
港湾・海岸.....服部昌太郎・記 70
書評
水質汚濁.....南部祥一・評 73
図書館だより.....74
文献抄録.....77~81
歴青すべり層によるネガティブ・フリクションの減少の足踏み式鉄筋コンクリート橋脚の地震応答の波と離岸流とのエネルギー・カップリング
ニュース.....82~86
多柱基礎工法による大島大橋の工事近況の淀川100年祭挙行さるの恵那山トンネル本坑貫通の東京港で廃棄物埋立護岸工に着手の大阪港廃棄物埋立護岸で廃棄

物の捨込み開始のわが国最初の港湾工事に用国有機雷探査船完成の江藤智正会員、運輸大臣に就任の山田伴次郎正会員、宇都宮大学長に選ばれるの日本学術会議会員に3氏選ばれる
マンスリー・トピックス.....87
文献目録.....89~105
土木学会誌第 59 巻(昭和 49 年)
総目次.....107
土木学会論文報告集第 221 号~第 232 号(昭和 49 年) 総目次.....119
会告.....123
日本学術会議報告.....141
学会記事.....142
編集後記.....145
目次.....146



JOURNAL OF THE JAPAN SOCIETY OF CIVIL ENGINEERS, VOL. 59, No. 13, DECEMBER 1974

SPECIAL ISSUE : REPORT OF THE 1974 NATIONAL MEETING OF JSCE

.....*Editorial Committee (Page 2~47)*

The 1974 National Meeting of JSCE was held at Hiroshima Institute of Technology in Hiroshima Prefecture from October the 8th to the 11th. Subjects of three special lectures are as follows :

1. Railways, Its Social Responsibility and the Impact on the Development of Civil Engineering Technology (*M. Takiyama*)
2. The Future of Construction Industry (*R. Osanai*)
3. Miyajima Shrine (*M. Nosaka*)

The summary of the technical sessions and highlights of various activities associated with the meeting are described. Details of eight intersectional discussion meetings are to be reported in Annual '75 which will be issued in April 1975.

OUTLINE OF THE CONSTRUCTION OF NEW KANMON TUNNEL.....T. Shimada (Page 48~58)

This report summarizes the construction process of New Kanmon Tunnel which is 18.713 km long, the second longest in the world. The construction was commenced in August 1970 and reached its opening test run with full scale on October the 25th, 1974. The construction of New Kanmon Tunnel, a double track undersea tunnel, is one of highlights of New Sanyo Line and the description of the planning and of the construction of undersea part will provide an invaluable data source for future tunnel construction.

OTHER CONTENTS :

Cooperation of Technology with Developing Countries (*M. Kikuchi*)/Local Memorial in Civil Engineering No. 2, Bridges in Naniwa (2) (*H. Inoue*)/Outline of Bank Erosion in Tama River by Typhoon No. 16, 1974 (*T. Okada, T. Nakamura and M. Fukuda*).

© JAPAN SOCIETY OF CIVIL ENGINEERS, 1974
YOTSUYA 1-CHOME, SHINJUKU-KU TOKYO JAPAN

土木学会誌編集委員会委員

委員 長	高橋 裕							
委員兼幹事長	酒匂敏次							
委員兼幹事	鎌田 修	川口昌宏	河野伊一郎	小林康彦	竹田英章	西田 博	花嶋晴道	
	藤田喜行	松本正敏	安 昌克					
委 員	荒木英昭	勇 直允	大内雅博	奥山芳郎	鹿島遼一	片山 徹	神原俊彦	
	小林弘幸	柴田定昭	須田征男	高木啓輔	谷 健史	竹内則雄	竹中敏正	
	塚山隆一	中川幸男	中島 享	中西一継	永井康平	秦 喜雄	日野幹雄	
	広田良輔	福岡敏夫	藤森泰明	藤原 稔	森竹 淳			
北海道支部委員	角田与史雄	松尾徹郎		関西支部委員	桜井春輔	村岡浩爾		
東北支部委員	浅田秋江	三浦 尚		中国四国支部委員	寺西靖治	福田茲久		
関東支部委員	和泉英夫	中村繁之		西部支部委員	川越俊政	平野宗夫		
中部支部委員	河上省吾	吉田 博						